

1. 科目名 (単位数)	養護実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	EDHE3377
2. 授業担当教員	石垣 久美子		
4. 授業形態	講義や演習 (保健室経営計画作成等)、事例検討等について、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	養護教育学、看護学、健康相談活動の理論と方法の単位を取得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	養護実習は、学校での実務を体験することを習得するものである。その養護実習の目的は、これまで学んできたことを生かすこと、養護教諭が行う実務の教育活動の中で位置づいていることを知ること、そして、新たな課題を見いだすことである。そこで、本科目では、養護教諭を目指すものにとってその準備の段階と本実習後の効果を上げるために、養護実習 (本実習) に対する理解を深め、実習生としての態度や心構え・技能等を事前に育成すること、更に準備の段階と本実習後には、自己の課題を省察し、進路選択にも結びつけることを学んでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できるようになる。 2. 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解し、説明できる。 3. 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みができる。 4. 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲をもてるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【アサイメント (宿題)】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容についての感想、まとめに関する小レポートを出題する。 ・実習先の学校経営方針や学校経営計画について調べて小レポートとしてまとめる。 ・講義での学びを踏まえ、自らの実習の目標を明確化し、実習の計画を検討する。 ・中間課題レポート：保健教育指導案作成 ・最終課題レポート：ほけんだより作成 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学編『養護実習・看護臨床実習の手引き』 大谷尚子・中桐佐知子『養護教諭必携シリーズ No. 4 改訂 養護実習ハンドブック』東山書房。 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『学校保健実務必携 新訂版』第一法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できたか。 2) 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解できたか。 3) 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みを考えることができたか。 4) 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲が持っているか。 ○評定の方法 授業ごとに出題する小レポート (総合点の 30%)、授業中のグループ活動等における積極的な発言 (同 30%)、中間課題レポート (同 20%)、最終課題レポート (同 20%) の結果から総合的に判断する。また、本学の規定に定められている、15 回中 12 回以上の出席が単位修得の条件であることを加味する。		
12. 受講生へのメッセージ	「養護実習指導」は、養護教諭になるために必要な理論と実地体験 (実習) が欠かせません。今まで学んだことがらを、具体的な教育実践の場面において検証していくことができます。現在学校現場で抱えている問題を直に感じ取り理解することができます。その上で、大学に戻ってから新たな課題意識を持って、その解決学習に発展させていくことができます。子どもの心と体を大切にする養護教諭にとって自己の心と体の健康管理に十分配慮し、児童生徒の範になれるような生活態度で臨んで下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 養護実習の意義と目標 ・臨地で実習する意義 ・養護実習の目標	事前学習	養護実習の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。
		事後学習	授業の目的について理解したことを、講義時間内に配布する小レポート用ワークシートに記述する。
第 2 回	養護実習の内容と方法① ・観察や参加の視点	事前学習	養護実習の内容と方法について教科書 pp. 9～26 を熟読し、基本的な事項について整理しておく。
		事後学習	養護実習の内容と方法について、理解したことを小レポート用ワークシートに記述する。
第 3 回	養護実習の内容と方法② ・実習日誌の書き方	事前学習	養護実習中の記録のあり方について教科書 pp. 37～41 を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	養護実習日誌の書き方について理解したことを小レポート用ワークシートに記述する。

第4回	実習前の準備と実習の開始 ・実習生という立場の理解 ・実習の成果をあげるための準備	事前学習	養護実習に臨む上での心構えについて教科書 pp. 27～44 を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	養護実習における心構えを整理し、自らの今後の課題を小レポート用ワークシートに記述する。
第5回	教育計画と学校組織についての理解 養護教諭の執務計画 ・保健室の環境整備 ・環境衛生検査の実際	事前学習	教科書の養護教諭の執務計画に関するページ (pp. 45～60、pp85～104)、及び教科書の学校環境衛生活動に関するページ (pp. 61～83) を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	保健室における環境整備の留意点を、小レポート用ワークシートに記述する。
第6回	健康診断の実技演習① ・測定の実習 (発育測定) 保健教育学習指導案の作成上の留意点	事前学習	健康診断 (発育測定) についての配付資料を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断の実技演習を通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。学習指導案に関する配付資料と教科書の該当ページ (pp. 161～196) 熟読し、作成の準備を進める。
第7回	健康診断の実技演習② ・測定の実習 (視力・聴力・色覚検査)	事前学習	健康診断 (視力・聴力・色覚) についての配付資料を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断の実技演習を通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第8回	健康診断の実技演習③ ・学校医や検診機関と実施する検診 ・健康診断票、学校生活管理指導票の記入方法	事前学習	健康診断票の書き方についての配付資料を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断の実技演習を通して、感じたことわかったことを小レポート用ワークシートに記述する。
第9回	保健室来室者への対応① (対応の基本) ・保健室来室者の来室理由と対応過程 ・標準予防策の実技演習	事前学習	教科書の来室者への対応に関するページ (pp. 131～160) を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	来室者対応における留意点について、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
第10回	保健室来室者への対応② (外科的症状への対応) ・救急処置に関する実技演習 ・保健だより作成上の留意点	事前学習	教科書の来室者への対応に関するページ (pp. 131～160) を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	外科的救急処置の留意点について、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。ほけんだよりに関する配付資料を熟読し、作成の準備を進める。
第11回	保健室来室者への対応③ (内科的症状への対応) ・問診、アセスメントの実技演習 ・指導案作成の振り返り	事前学習	教科書の来室者への対応に関するページ (pp. 131～160) を熟読し、基本的事項を整理しておく。
		事後学習	内科的救急処置の留意点について、自分の考えを小レポート用ワークシートに記述する。
第12回	集団を対象とした保健教育① ・保健教育指導案の検討、模擬授業準備	事前学習	グループで担当する模擬授業実践のアイデアについて、小レポート用ワークシートに記述し、まとめておく。
		事後学習	模擬授業指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど準備をしておく。
第13回	集団を対象とした保健教育② ・模擬授業の実践と討論	事前学習	模擬授業の実践に向けて、グループごとに準備を完了する。
		事後学習	模擬授業から学んだことを小レポート用ワークシートに記述する。
第14回	集団を対象とした保健教育③ ・模擬授業の実践と討論	事前学習	模擬授業の実践に向けて、グループごとに準備を完了する。
		事後学習	模擬授業から学んだことを小レポート用ワークシートに記述する。
第15回	養護実習に向けたまとめ	事前学習	これまでの講義を踏まえた自らの養護実習の目標を、小レポート用ワークシートに記述する。
		事後学習	実習開始に向けた自らの今後の課題を整理し、解決のための計画を整理する。